

サービス付高齢者向け住宅 ゆいま〜る那須



雑木林だった敷地の高低差をそのままに、集まりすぎず、散らばりすぎず、「わ」になって佇む建物群。手前がA棟食堂部分。



緑の丘に建つ八溝杉板貼りのヴォリューム。



入居者が作り上げた緑豊かな中庭。



森の緑をバックに演奏する音楽室。



中庭となる開放感のある空間。



八溝杉フローリングの床がエンガワドマを介して中庭とつながる住戸。



自然の中の星空を尊重した控えめの屋外照明。



入居者の持ち寄った本で埋め尽くされる図書室。



高低差のある住戸の間を巡る敷地内通路。



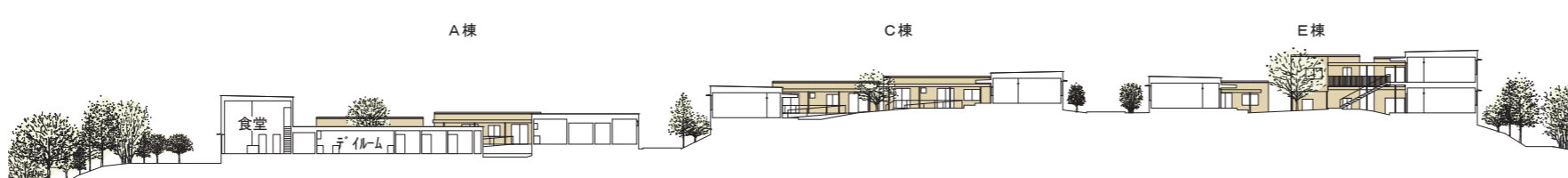
入居者制作の手書き和紙の障子があるダイニング。

高齢者のための終の棲家である。個々が住まう70世帯の居室の他に、食堂・図書室・音楽室といった共用室やダイニングを併せて設置した。このプロジェクトが目指したのは、豊かな自然のなかで日々の生活を謳歌し、集まって住むことで生まれる安心感を享受できる住まいである。そのため、入居者同士の日常的な会話や趣味などのアクティビティに溢れ、居住者がお互いを支えあうことができる場となることを心がけた。ゆるやかで密なつながりを生むため、70世帯で1つのコミュニティを形成するのではなく、12から18戸ずつのユニットを5つ形成。ユニット毎の日常的なコミュニティ醸成から、全体のコミュニティへと広がる住まいを考えた。独立性があり空地も光も風も多く得られる2戸1形式にし、アクティビティ創出の場となる中庭や共用棟を囲むように住戸を配置している。またアクティビティに自然に馴染んでいけるように、各住戸は中庭に顔（エンガワドマ）を向けて寄せ合い、お互いの気配をさり気なく感じ、相互に見守りやすくなる場を創り出した。素材は、全体的に自然に還すことが可能なものを選び、壁・天井の内装材にはケイ酸質の材料を採用した。また構造材・床材・外装材などには、地場の八溝山系の杉材を無垢のまま使用している。木の優しさが入居者の心に温もりをもたらし、笑顔を生み出してくれると思う。現在、入居者はともに中庭を作り食事をとり、隣接する牧場の子牛の世話や地域の活動への参加を通し、日々の暮らしを楽しんでいる。特技や趣味を活かした仕事を持つ入居者も多く、ハウス内通貨も生まれた。こうした日常生活の中で育まれたコミュニティや住まい方は、自然と次世代へ継承されていくのだと思う。



1階平面図 S:1/700

住戸は3タイプ(10坪、14坪、20坪)の広さがあり、中庭を囲むように配置することで、ゆるやかなコミュニティを育むような配置計画。



断面図 S:1/700

雑木林だった敷地の高低差をそのまま利用することで、様々な風景を体験でき、適度にプライバシーを守ることができる断面計画。



平面詳細図 S:1/200

中庭以外の場所も、入居者たちが思い思いの植栽を施す

「エンガワドマ」から屋外へ生活が溢れ出し、生活感や気配が感じられる

外壁・杉板八溝杉材=18 木製保護塗装

木製サッシ(複層ガラス)

8タイプ住戸

木製サッシ(複層ガラス)

モルタル金ゴテ仕上げ

日常のコミュニケーションの場となる屋外通路

入居者たちが選んだ様々な中庭の植栽帯

入居者が自ら作った中庭の植栽帯

コンクリート舗装

木製サッシ(複層ガラス)

木製サッシ(複層ガラス)

木製サッシ(複層ガラス)

木製サッシ(複層ガラス)

木製サッシ(複層ガラス)

木製サッシ(複層ガラス)

木製サッシ(複層ガラス)

木製サッシ(複層ガラス)

木製サッシ(複層ガラス)

木製サッシ(複層ガラス)

木製サッシ(複層ガラス)

木製サッシ(複層ガラス)



精進材や仕上材に使用する地場産木材の採集現場を入居希望者たちと見学した。

建設中の敷地を入居希望者たちと散策し、敷地の魅力を調べる。

ワークショップの外部空間で、外装の完成イメージについて入居希望者と話し合う。

入居希望者と30回以上のワークショップを重ね、設計や運営計画に反映した。

建設現場の見学や通風の確認が安定しない人々に合わせた意匠の調整。

入居者が制作した手書き和紙を用いて、みんなで障子貼りを行った場面。